

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)金明町共同住宅 新築工事	階数	地上6F・地下0階
建設地	埼玉県草加市	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域・第一種中高層住居	平均居住人員	142 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年8月 予定	評価の実施日	2020年7月27日
敷地面積	1,087 m ²	作成者	環境オールシステム株式会社
建築面積	647 m ²	確認日	2020年7月27日
延床面積	2,737 m ²	確認者	株式会社 エスピーエス一級建築士事務所 古内信太郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.4 ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 3.1**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
<p>Q1のスコア = 3.3</p>	<p>Q2のスコア = 3.3</p>	<p>Q3のスコア = 2.7</p>

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.4**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>LR1のスコア = 4.0</p>	<p>LR2のスコア = 2.9</p>	<p>LR3のスコア = 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>本建物は、新田駅に程近い場所に計画された集合住宅である。敷地内には緑地を設けて、自然環境の保全や創出に配慮した計画としている。</p>	<p>その他</p> <p>0</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全面的にF☆☆☆☆及び規制対象外の建材を採用し、室内空気質の健全化に配慮する。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劣化等級3を満足し、躯体の長寿命化に配慮する。 ・耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化に配慮する。 	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた敷地内出来る限り緑地を設け、温熱環境の向上に配慮する。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LED照明を採用し、省エネルギーへ配慮する。 ・複層ガラスを採用し、省エネルギーへ配慮する。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノンフロン断熱材を採用し、ODP値及びGWP値低減へ配慮する。 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨水流出抑制対策を実施し、地域インフラ抑制に配慮する。 ・広告物照明の設置はせず、光害の抑制に配慮する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)金明町共同住宅 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境							0.40			3.3
1 音環境						2.0	0.15	3.2	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音						1.0	0.50	3.4	0.50	
1 開口部遮音性能		<住居>住居部分のサッシ遮音等級はT-2。				1.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	2.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
2 温熱環境						2.0	0.35	3.0	1.00	2.8
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.0	1.00	
1 室温						3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能						3.0	0.38	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.7	0.25	4.0	1.00	3.8
3.1 昼光利用						2.4	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率		<住居>昼光率3.30%				2.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御		<住居>カーテン、庇(上階バルコニー)を組み合わせることで制御。				2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						1.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		<共用>明るさセンサーやタイマーにより、自動照明制御。				5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						4.0	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		<共用><住居>全面的にF☆☆☆☆及び規制対象外の建材を採用。				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						4.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量		<共用>建築基準法に対し、1.71倍の換気量を確保。				5.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.3
1 機能性						3.1	0.40	4.0	1.00	3.8
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		<住居>各居室に電話が引き込まれ、Gbitクラスの通信が利用可能。				-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感・景観		<住居>LDの天井高:2.5m。				-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理						3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		<共用>防汚性のある内装材の採用、段差のない設計等。				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.3	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		住宅性能基準3-1劣化対策等級3。				5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種のうち、2種類にB以上を使用かつEは不使用。				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						1.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスはAクラス。				4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.2	0.30	3.1	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	基準階の階高:2.96m。	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.79	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマや泡沫水栓、節水型便器を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材の分別が容易な計画としている。	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロンの断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:76%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」の一部を満たし、広告物照明はなし。	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート





■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)金明町共同住宅 新築工	BEE	1.4	BEEランク	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	-----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.9	+	2.6	=	6.5	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.9
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.9
<配慮した内容を記述>			
<ul style="list-style-type: none"> ・LED照明を採用し、省エネルギーへ配慮する。 ・複層ガラスを採用し、省エネルギーへ配慮する。 			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			
敷地内に積極的に緑地を設け、温熱環境の向上に配慮する。			

: 入力欄